11月13日(日)

おっとっと はみ出し丼

1パック

1,280円(税込)

皆さんおはようございます。
どうも西浦龍矢です。この度僕は、念願の準中型トラックの免許を取得させていただきました。
僕は仕入れのトラックの運転をすることを夢にしてました。会社の先輩方のトラックの運転姿を見てたら凄くカッコよくて憧れだったんです！夢が叶った気持ちでいっぱいで、こんなに嬉しい気持ちはありません!!
先日、免許取得してから、早々に広島中央市場に仕入れに行かせていただきました。僕は市場に行くのが初めてで、行く道中は霧が凄くて前もあんまり見えないような道を、安全運転で走りました。
市場に着くと新鮮な魚や野菜…なんとお花も売ってありました。同じ広島にこんな場所があるなんて、と感動を覚えたんです。まるで道中の霧が僕を新世界に導いてくれたみたいです(笑)。
祐宗店長は市場に着くと目付きが変わり素早く魚を見て新鮮な魚を仕入れるんです。僕も祐宗店長みたいになりたいなーって思いました。
そんな祐宗店長の後ろについて歩いて市場で魚を見ていたその時、見て驚きましたよ!!迫力満点でめっちゃ美味しそうな海鮮丼が置いてありました。
そこで思いついたんです！よし!!迫力満点でめっちゃ美味しそうな海鮮丼を西田鮮魚店の広告しようと！すぐに祐宗店長に相談したら、【やろう！】と言ってくれました。
海鮮丼の名前を考えました。名付けて【おっとっと はみ出し丼】。
今日は、僕が選び抜いた美味しい魚をしっかりはみ出し丼にして皆さんにご提供させていただきます。是非是非来店していただき、お召し上がりください。
これからも市場に仕入れに行かせていただき、皆さんに新鮮な美味しい魚をご提供させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします！

西田鮮魚店　西浦　龍矢

ジョイフル 西田鮮魚店 ☎72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489（旧庄原市内はご自宅に配達）

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

『長靴で理事長室に入ったのは、あんただけじゃ』

鮮コーポレーション㈱　代表取締役会長　西田　昌史

10月第3月曜日。10時からの四役会議のためジョイフルに出勤。社員駐車場に車を停め、立体駐車場の階段に向けて歩いていると、階段の下で、こちらをしげしげと見る男性が。誰？と思いながら近づく。マスクを外されてやっとわかった。

「あっ、先輩」。

広島みどり信用金庫、元・理事長の森信さん。退職されて何年になるじゃろ。在職中はお世話になった。

「お久しぶりです」と挨拶を交わし階段を昇る。いきなり、「昨日、書いとらんかったじゃないか」。この手紙のこと。

「ちょっと出とったんで・・・・」。あやまる。

階段の上に女性が。森信さんの奥さんだった。奥さんも「読んでますよ」。お礼を言う。

森信さんは、時折、手紙を読んで感想をメールでくださる。父親とのことを書いたときもそう。

この手紙のこと、また、父とのことを褒めていただいたあとに『コロナ禍等もあり厳しい経営環境と思いますが、貴殿をはじめ優秀な経営陣、スタッフを抱える御社なら、きっと乗り越えられます。』と書いていただいた。理事長を退かれてからも気にして頂けることがありがたい。

76才だと言われる。私と6才違い。「見えませんね」「あんたも・・・・」お互い褒め合って、渡り橋を渡り終え、お別れした。

若いころ、森信さんとは、けっこう厳しいやり取りをした。親父が他界して、信用金庫にも私が顔を出さなければならなくなったころ。たぶん31才か32才。

窓口で、森信さんと向かい合い、融資の話をしていた。森信さんが「売上が無くても、大丈夫な計画を持ってこい」みたいなことを言われ、「そんなんできるか」と、私もムキになって言い合った。

きれっきれの37～38才の森信さんと、親父が亡くなり、前のめりで生意気盛りの私。お互い尖（とが）っていた。

その後すぐ、私は鼻っ柱を折られた。

知識も力も無い自分が何を血迷ったか、当時、大繁盛していた『サンデーサン』のようなレストランを庄原にも作ろうと計画し、建築途中で投げ出した事件。この時ばかりは、私もノイローゼ一歩手前。

建築を依頼していた遠縁の新興建設の落合社長に助けられ、テナントビルに計画変更。その一画を『居酒屋　花車』としてオープンして恰好（かっこう）はついたが、建築を止めるにも、それまでかかった費用は払わなければいけない。

意を決して信用金庫に出向き、森信玲二理事長（ややこしいが、森信さんの前の理事長。森信さんは正敏。血縁でもないらしい。）に会った。用向きは、もちろんお金を借りること。当時の私にとって半端な額ではない。森信理事長はハンサムだが、顔が怖い。ただ、奥さんが私が中学生の時の恩師ということもあって、わりと楽に話をさせてもらっていた。しかし、さすがに、理事長室に通された時は緊張した。初めての借金の申し入れ、しかも、後ろ向きの借金だ。

理事長は言われた。

「暗い顔をして入って来たら、貸すのは止めとった。にこにこ元気に入ってきたから、貸してやる」。

ほっとした。

この時の経験で、以後、苦しい時は、明るく振る舞うことにした。とくに金融機関では。もちろん、時と場合にもよるが・・・。

それから、何日かして、森信さんと会った時、笑いながら言われた。

「長靴で理事長室に入ったのは、あんただけじゃ」

えっ、長靴じゃった？。意識してなかったが、当時の私の制服だからな。仕方ない。

それから、なんとなく、森信さんと、なかよくなったというか、気心がしれて冗談も言えるようになった。

だからと言って、融資の基準が甘くなることはなかった。今でも覚えている。

三次に『すし家族』を出す時、下話だけはしておいたものの、具体的な融資の条件などは詰めないまま、見切り発車のような形で進行し、建物もできてきて、そろそろ支払いしなければと、信用金庫に行った。サインしてハンコを押せばすむものと簡単に考えていた私。しかし、10分後、森信さんと私は契約書を間にして、あ～だこ～だとやり合っていた。

金庫としては、金額も大きく、保証人が必要だと言われる。私は、「これだけの金額、誰に保証人を頼めるのか。誰でも断わる。よぅ頼まん」と徹底抗戦。今は、保証人はとってはいけないことになっているが、当時の商習慣としては、森信さんが正しい。

保証人がいなければダメだ。その一点張り。根負けした私は、ついに「彼なら・・・」と、電話した。幸い、受けてくれた。何時間くらい居たろう。外は暗くなっていた。37才の11月だった。

お金を借りることの大変さを教えてくれたのは森信さんだった。

『すし家族　三次店』がなんとか成功し、庄原店、北進丸店、大町店、吉田店と融資していただいた。

まだまだ、海のものとも山のものともわからぬ西田鮮魚店を認め、応援してくれたのが森信さんだった。

それから、森信さんは専務理事、理事長と昇りつめられた。

人生の節目節目で、誰と出会うことができるか。そして、その縁を活かせるか。

70年を振り返って、その幸運を思う。

２０２２年11月13日